

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人みんなのえがお
施設名	さんさん保育園
報告者（役職）	皆川 奈津子（園長）
住所・連絡先	茨城県水戸市米沢町 330-1
	☎ 029-350-2537
	E-mail info@sunsun310.com

○タイトル（保育計画）

どうなってるの？理事長のあし
～すなおなこころの子どもたちに伝えたいこと～

○主な助成備品

体験用大腿儀義足

1. 保育計画策定の目的

理事長が義足であることから、子ども達は毎日義足とふれあっています。目で見た情報を実際に子どもたち自身で体験することで、自分と他人を比較することができます。比較をすることであらたな発見が生まれます。学びとしての目標は、困っているときに自然と手助けできる能力、困ったときに手伝ってと言える能力、人はそれぞれ違った点があり、それを個性ととらえることができる能力、言葉かけの能力、を感じ取り身につける事です。

また、理事長自身の生き方、過ごし方を見せる事で、自分自身や身の回りの人に、困難が訪れた時に、片足1本失っても元気に生きている人間を知っていることで、多少の壁も乗り越えられる意識に転換することができるのではないかと考えたからです。

2. 具体的な実施内容

園長先生により、プロジェクターを用いて、義足のくうちゃんの絵本「くうちゃんいってらっしゃい」を読み聞かせした後に、大人用の模擬義足を先生が使用してお手本を見せてから子ども用模擬義足をこども達に年長さん→年中さん→年少さんの順番に体験してもらいました。体験後に理事長の話をしました。

模擬義足では、不自由さから足を大きく出してしまうこども達ですが、大きく出してしまうと上手く歩けません。不自由な足は小さな歩幅にしないと歩けないので、急がば

回れのような気持ちをこども達に持たせるよう努めました。

その後、絵本の工程と同じように、理事長の義足を外し、断端部を子ども達に見せました。義足を履くには、シリコンライナーという物を先につけてそれから義足に差し込むことを実演しました。義足の足を持って振り回したり、持ち上げたり、踏んだり引っ張ったりすると転んでしまうかもしれないから気をつけましょうね、という話をしました。



模擬義足での歩行に挑戦する園児



実際に義足の取り外しの様子を
園児達に見せる皆川理事長

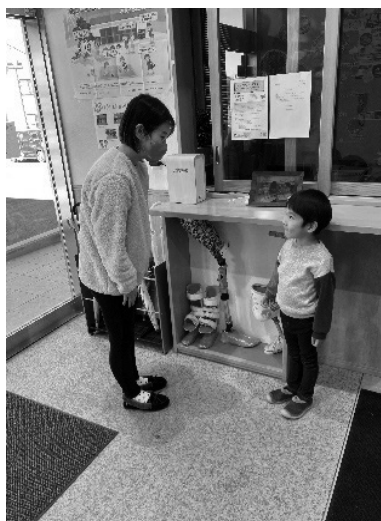


絵本「くうちゃんいってらっしゃい」

3. その成果と評価

子ども達に断端部を見せて触らせたときに、「ぷにぷにでしょ？」と投げかけた言葉が、衝撃的な時に入ってきた言葉で、子ども達には、ぷにぷにという印象が強く残ってしまいました。もちろん、ぷにぷにだったという印象も大事ではありますが、「歩く時には大変な時もあったりするから、義足の人を見かけた時にはお手伝いしてあげられると良いね。」などの言葉を先に話せると良かったです。

降園時に保護者がお迎えに来た際、「今日、義足つけたんだ！」と保護者に楽しそうに話す子ども達の姿がありました。



保護者に義足を紹介する園児

4. 今後の課題と展望

午前中の少ない時間の中での体験会だったので、保育中に小さく取り入れたり、運動会の種目の中に入れて、大人用の模擬義足もあるので先生や保護者も一緒になって体験できるようなイベントができるようにしていきたいです。

子ども用の松葉杖や車椅子を購入し、松葉杖の使い方、車椅子の使い方も体験していけるとケガした時や、ケガをした人のケアに関しても学んでいけると思いますので、伝えていきたいと考えています。

障がい者とのふれあいをたくさん増やすことで、色々な環境の人がいて、それにすぐ適応できる人間力を身につけていきたいので、様々な障がい者に協力を依頼して、夏祭りなど、一緒に楽しめるようなイベントを企画していきたいです。

以上